

平成 26 年度 長崎国際大学 入学式 学長式辞

花吹雪、花ふぶきけり月膨という句にありますように、桜吹雪が大地を白さに変えています。本日、第 15 回の入学式を迎えましたところ、佐世保市市長をはじめ多数の御来賓の皆様のお臨席を賜り、誠にありがとうございました。また、御家族の皆様、本日は、おめでとうございます。

さて、463 人の新入学生の皆さん、大学への入学、心より歓迎を申し上げます。御承知の方もいらっしゃると思いますが、本大学は、学校法人九州文化学園がその母体となっております。本学園は、昭和 20(1945)年の戦後日本が一番貧しく、困窮の中で設立されました。現在は、大学の他に長崎短期大学、九州文化学園高等学校、幼稚園、更に、調理師専修学校、歯科衛生士学院を併設する地域の総合学園であります。

本学は、平成 12(2000)年、佐世保市、長崎県、地元の企業の御支援と熱い期待の中で設立された公私協力型の大学であります。建学の理念は、“いつも、人から。そして、ここから。”というホスピタリティーを内包するものであります。

入学にあたりまして、大学の学びとは何か、今一度確認をしたいものであります。2060 年、今から 47 年後、人口は平成 22(2010)年の 3 割減の約 9,000 万人に減少し、そのうちの約 4 割が 65 歳以上の高齢化となり、少子高齢化は進み、生産年齢人口が減少し、経済規模は縮小、それに伴い国の税収は減り、一方、社会保障費は増大してまいります。

一方、アジアや南米の新興国の台頭により、産業の空洞化が起これ、経済環境は厳しさを増し、世界全体は「知識基盤社会」が更に進展してまいります。そして、将来の就職環境はサービス産業の進展、国籍を問わない人材採用、成果主義、能力賃金の導入など、終身雇用、年功序列といった一律、横並びの雇用慣行が変わってまいります。

このような社会の広がりの中で、それを乗り切っていく力を本学で身につけていただきたい。そのためには、学ぶということ、学修への真剣な態度が不可欠です。

例えば、グローバル社会の到来は何を物語るのでしょうか。ここに 1 つの携帯電話があります。これはもしかしたらアメリカで発明され、インドで設計され、ベトナムで部品を作って、中国で組み立てられ、日本の会社で販売するというように、多くのものが国境をまたいで動いています。また、グローバルの典型は学問でもあります。大学の学問には国境はありません。

更に、21世紀はまさに混迷の時代です。答えもなければ到着する目的地もありません。ハーバード大学サンデル教授の、“5人の命を救うために1人の命を犠牲にしているのか”などという問いかけに、私達はどうか答えるのでしょうか。私共の回りでも、8%の消費税は高いのか安いのか、原子力発電は存続か廃止か、死刑は存続か廃止か…等、社会には正しい答えを見出すのが難しいものがあります。

したがって、学修が必要なのです。大学の学びは、学ぶことによって新しい自分に出会うことです。学べば新しい知識に出会えます。学べば自分が知らなかったあなたの才能に出会い、成長し学ぶことによって自分の求める仕事に就くことができるのです。

繰り返します。現在日本の大学生の学修時間は、授業を入れて1日4.6時間、世界ではその倍の8時間、1週間の自宅学修は日本では、1～5時間、アメリカでは11～15時間で、学修時間に大きな差があります。私たちは、質をとまった学修時間をしっかりと確保し、問題を解決できる力、計画、実行する力を身につけなければなりません。

本学の持つ理念“いつも、人から。そして、心から。”の実践であります「茶道文化」。茶道は客をもてなし、礼節と伝統的文化を学ぶ本大学独特の実践的講座でもあります。ぜひ受講してください。

私達教職員は、皆さんを心から支援し、皆さんの夢実現をお手伝いいたします。何かを始める場所はあなたが今いるその場所であり、それが長崎国際大学であることに心して、かけがえのない学生生活を真剣に送られますことを期待し、歓迎の式辞といたします。

平成26年4月2日

長崎国際大学

学長 安部 直樹